

## ま え が き

平成12年に文科省は「大学における学生生活の充実方策について」という報告を行いました。これは、いわゆる「広中レポート」といわれているものであり、学生の立場に立った大学づくりを目指したものとして、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」への転換を図る、当時としてはかなり踏み込んだ提言であったといわれております。

時代は変わり、2007年には少子化と大学志願率の頭打ちにより、大学・短大の進学希望者数と、大学の合格者の総数が同数になる、いわゆる大学全入時代を迎えます。今や学生が大学の主役であるという考え方は、当然のこととして受け取られており、香川大学の改革構想でも、そのキャッチフレーズは、「地域に根ざした学生中心の大学を目指す」というものであります。

本報告書は、香大生が、どのようはキャンパスライフを送っているか、学業、課外活動や、経済状況、アルバイトの実態や住居環境などについて詳細にアンケート調査したものであります。そのほか、公開はいたしておりませんが、自由記述篇もあり、香大生の不満や希望を直接聞くことのできる手段として有効活用されてきております。調査アンケートなど参考に、学生から指摘された項目について、キャンパスライフがより充実したものになるよう私どもも改善策を講じてきております。

これからの大学にとって、流動化した多様な学生をどう受け入れていくかが、重要な課題となります。時代に即したカリキュラムの構築と、きめ細かいサポート体制が必要であると感じています。そして、大学運営に学生の目線に立った学生参加型の意思決定メカニズムの開発も今後の課題であると考えております。

本報告書の作成には、香川大学学生生活実態調査部会が担当いたしました。委員ならびに学生生活支援グループの職員の皆様には多大のご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

平成17年8月

香川大学 教育担当理事・副学長  
竹 内 博 明

## 学生生活実態調査部会委員

(平成 16 年度委員)

副 学 長	竹 内 博 明	
学生生活委員会委員	山 神 眞 一	( 教育学部 )
〃	吉 岡 祥 充	( 法 学 部 )
〃	清 水 眞 志	( 経 済 学 部 )
〃	村 主 節 雄	( 医 学 部 )
〃	仲 谷 英 夫	( 工 学 部 )
〃	京 正 晴	( 農 学 部 )
〃	溝 口 剛	( 保健管理センター )

(平成 17 年度委員)

副 学 長	竹 内 博 明	
学生生活委員会委員	山 本 茂 喜	( 教育学部 )
〃	飯 島 暢	( 法 学 部 )
〃	丹 羽 佑 一	( 経 済 学 部 )
〃	村 主 節 雄	( 医 学 部 )
〃	堀 川 洋	( 工 学 部 )
〃	木 村 義 雄	( 農 学 部 )
〃	溝 口 剛	( 保健管理センター )

# 目 次

第1章 香川大学学生生活実態調査について	
(1) 調査の目的	1
(2) 調査実施期間	1
(3) 調査の対象と方法	1
(4) 調査の内容及び項目	2
(5) 集計と報告書の作成	3
第2章 調査結果の概要について	
I. 基本的事項について	5
1. 回答者の所属学部・入学年度・性別など	5
2. 回答者の居住場所、通学方法及び通学に要する時間	7
3. 家庭状況	10
4. 経済状況	12
(1) 収入状況	12
① 家庭からの給付	12
② 奨学金	14
③ アルバイト	15
④ その他の収入	16
⑤ 1か月の収入総額	17
(2) 支出状況	19
① 食費	19
② 住居費	20
③ 被服費	21
④ 学業費	22
⑤ 通学費	23
⑥ 通信費（携帯電話代等）	24
⑦ その他の支出	25
⑧ 1か月の支出総額	26
(3) 家庭からの給付と修学との関係	28
(4) お金が足りなくなった場合の対処	29
(5) 消費者金融の利用	30
(6) 所有する持ち物	31

(7) 海外旅行の経験	38
(8) 海外旅行の行き先	39
II. キャンパスライフについて	40
1. 入学動機等	40
(1) 本学入学までの経過	40
(2) 本学入学は第1希望か	42
(3) 本学志望の動機	43
(4) 本学志望に当たって誰の意見を重視したか	44
2. 学 業	45
(1) 学部・学科への満足度	45
(2) 授業への出席状況	47
(3) 興味のある全学共通科目	48
(4) 興味のある学部開設科目（専門科目）	49
(5) 授業以外での勉強時間	50
(6) 授業を欠席する理由	51
(7) 教員との交流	52
(8) 図書館の利用	53
(9) 図書館の利用目的	54
(10) 専門学校への通学	55
(11) 専門学校の内容	56
(12) 専門学校への通学方法	57
3. 課外活動	58
(1) サークルへの加入	58
(2) サークル加入の動機	59
(3) サークルの感想	60
(4) 学業との両立	61
(5) サークルに加入しない理由	62
(6) 学外のサークルへの加入	63
(7) 新入生歓迎行事、大学祭等の学生行事	64
4. 就 職	65
(1) 卒業後の進路	65
(2) 就職を考えはじめた時期	66
(3) 希望する分野	67
(4) 就職決定で重視すること	68
(5) 希望地域	69

(6) 就職活動で不安に思っていること .....	70
(7) 就職を相談した相手 .....	71
(8) 就職についての大学への要望 .....	72
(9) キャリア教育開設の希望 .....	73
(10) キャリア教育に希望する内容 .....	74
5. 駐 輪 .....	75
(1) 構内交通規則を知っているか .....	75
(2) 駐輪状況 .....	76
(3) 所定の駐輪場以外を使用の理由 .....	77
6. ハラスメント .....	78
(1) ハラスメントを受けた経験 .....	79
(2) ハラスメントの相手 .....	80
(3) ハラスメントを受けたときの対応 .....	81
(4) 相談した相手 .....	82
(5) ハラスメントによる影響 .....	83
(6) 本学のハラスメント防止規則を知っているか .....	84
III. 個人生活について .....	85
1. 住 居 .....	85
(1) 住居の形態 .....	85
(2) 部屋の広さ .....	86
(3) 住居の感想 .....	87
(4) 住居を選ぶ条件 .....	88
(5) 住居の斡旋者 .....	89
(6) 入寮の検討 .....	90
(7) 学生寮を選んだ理由 .....	91
(8) 学生寮を選ばなかった理由 .....	92
2. 健 康 .....	93
(1) 現在の健康状態 .....	93
(2) 保健管理センターの利用について .....	94
(3) 身体の具合が悪くなったときの対処方法 .....	95
(4) 飲酒について .....	96
(5) 喫煙について .....	97
(6) 平日の就寝時刻について .....	98
(7) 1日の睡眠時間について .....	99
(8) 1日の食事の回数について .....	100

3. 友人	101
(1) 学内の友人関係	101
(2) 精神的ストレス	102
(3) ストレスの原因	103
(4) 悩みの対処方法	104
4. アルバイト	105
(1) 過去1年間のアルバイト経験	105
(2) アルバイトの職種	106
(3) アルバイト収入の使途	107
(4) アルバイトに費やす時間（授業期間中）	108
(5) アルバイトに費やす時間（長期休暇中）	109
(6) アルバイトと学業の関係	110
(7) アルバイトの紹介者	111
(8) アルバイトを選ぶ基準	112
5. ボランティア活動	113
(1) ボランティア活動の経験	113
(2) ボランティア活動の内容	114
(3) ボランティア活動の年間活動日数	115
(4) ボランティア活動への関心	116
(5) 今後やってみたいボランティア活動	117

## 資料編

資料1 平成16年度（第9回）学生生活実態調査集計表	119
資料2 平成16年度（第9回）学生生活実態調査票	146